第１回　働きやすい動物病院とは ～企業病院と個人病院、どっちがいい？～

企業病院の増加

最近日本にも増えてきたアメリカからの企業病院。そのせいかよく聞かれる。「本当のところどうなんですかね、働きやすいですか企業病院って」。

私は日米の諸タイプの動物病院で仕事をしてきた。アメリカでは小規模と大規模の個人動物病院、一次診療企業病院、スペシャリスト企業病院。それから開業もした。日本では個人動物病院、企業動物病院、動物愛護病院に勤めた。改めて振り返ると、全部一通り経験している。結論からすると、どこも長所と短所があるしどこも住めば都。大勢でワイワイ型、こじんまり型、都市と地方、裕福層と庶民層。自分に合う合わないがあるだろう。

だが好みもそうだが、臨床獣医師としてのステージや、私生活によって働きやすい病院は変化する。特に女性は産休子育てにも入ることがある。よって働きやすい病院とは、自分のプライベート生活にマッチしていることがさらに重要になるだろう。

新卒：黎明期

渡米前の数年間、私は東京の大きな個人病院と地方の個人病院で働いた。まだ独身でお金もない独身アパートの生活。夜中の急患、休日の呼び出しなどで多忙かつ、知識と経験と技術を積むのに一生懸命な時。この時期ほとんどの方はまだ結婚しておらず、学びと経験に集中できる職場を選べばよい。

学びと経験の職場だが、企業病院と個人病院の差よりも、それぞれの病院の差が大きいと思う。大病院は設備が充実しており、複数の先輩たちと多くの症例を診る。が、おそらく人間関係が複雑になり、ちょっとした派閥があって院長派、副院長派のどちらかに所属しないと居場所がなかったりすることも。不妊去勢手術などの基本的なものも、スタッフ数が多いと先輩が先になり、若手に回ってくるのに時間がかかるかも。

院長と自分だけの病院なら人間関係はずっと楽。確かに院長の古いワンパターン的な臨床にはちょっとうんざり、もあるだろうが今の時代。遠隔でいくらだって最新のことが学べる。院長不在の日は結局自分１人で何とかしなくてはならない。私は卒業２年目で、田舎の小さな個人病院で、院長不在の時に飛び込んでくる症例のおかげで多々経験ができた。大学病院へ紹介なんて贅沢はなし。大型犬の不妊手術から緊急パイオメトラ、猫の会陰尿道瘻から犬の脾マス、橈尺骨折のオペまで半分泣きながらやるしかなかった。今から思うとよい経験だったと感謝している。

臨床獣医師生活の中で、乾いた土に水が吸収するように、素直にすべてをどんどん学び、実力をつけていく時期はそうそうない。体力も頭脳も若いこの時こそ。無理をしてでも体を張って学びに集中してほしい。企業病院でも個人病院でも。

数年後：安定成長期

一通り自信がつき安定する数年後。人によっては、一次診療ではなく二次診療病院やスペシャリストに興味を持つ時でもあるだろう。私も鳥エキゾの専門病院で仕事をして魅力にはまり、二次診療のみを行っていた時期があった。

二次診療をする場合、企業病院のネットワークがあると、どこまでやって返すかという基準が明確でやりやすい。だが逆にネットワーク以外の一般病院からすると、ちょっと敷居が高くなることも。

またこの時期、結婚、妊娠、出産といった人生のイベントがやってくる人も多々いるだろう。アメリカは平均２～３カ月で産休から職場復帰するが、日本のように年単位で職場を去る場合は、将来の予定をしっかり立てて院長と共有してほしい。

一般にこの時期は、企業病院も個人病院も特に関係ないと思う。仕事も充実しながら、プライベートも楽しむ時期だ。恋人とデートや新婚生活を楽しむ。ワークライフバランスを重視する生活をするならば、有給休暇の取りやすさや緊急時の呼び出しなど、自分に合った職場を選べばよい。女性の場合、「○年後に最大限の努力をして産休後に戻りたいです」と伝え、それを尊重してくれる院長はどこかに必ずいる。産休の優遇に関しては、企業も